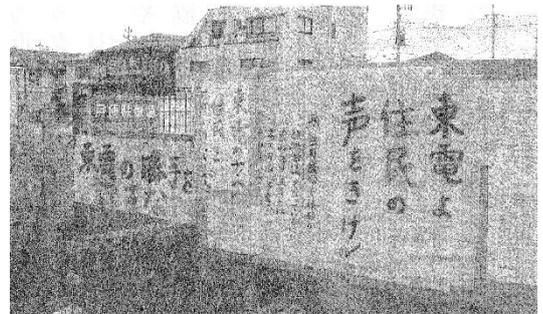




中野あきと事務所ニュース  
**みとりと清流**  
 2002年6月発行 第7号  
 日本共産党 中野あきと事務所 ☎599-3350  
 日野市南平7-6-72 発行責任者 小山敏正



追いつめてきた有事法案  
 共同を更に広げ  
 何としても廃案に

**変電所の建設強行ストップを**  
 一人を除く近隣住民がすべて反対。そんな中で住民との話し合いを打ち切って、建設着工を進めようとする東京電力。  
 高幡地域の変電所建設で、住民の声などおこまいなしで強引に進めようとしている東電の姿勢を中野議員は厳しく告発し、「法的にクリアーしていれば何でも許されるのか」「これでは住民自治もまちづくりも成り立たない。今こそ、市長は法的にはなすべのない住民の代表として住民の声、願いを東電に届けてほしい」と迫りました。  
 市長は、部長、助役の「やむを得ない」との見解を事実上修正し、「下手をすれば手が後ろに回りかねないような難しい問題だが、今一度東電と話をすると決意をせしめました。」

## 高齢者世帯を支える制度の確立・充実を

西部地区センターの再建  
 豊田南高層マンション計画  
 高幡地区変電所建設

など・街づくりの諸問

6月6日、中野議員が本会議一般質問にたちました。マンション計画や変電所建設など、地域の幅広い方々の傍聴がありました。

### 南平西部地区センター 早期再建を

南平駅に近く、便利で利用率が高かった南平西部地区センターの早期の再建が望まれています。中野議員は「先日も、ここを利用して行っていた地域のお年寄りの食事会の方たちの要望を聞いた」と述べ、再建計画をただしました。  
 担当の市民生活部長からは「近隣の方の了解を得ながらフェンス工事に取りかかり自治会、利用者の方々の声も聞きながら、気楽に利用しやすい施設を目指して早期再建に努力する」との答弁がありました。

### 豊田南地域のえんぴつビル このまま進めていいのか 高層マンション建設

豊田3丁目に住宅戸数44戸、最高高さ53メートルの高層マンションの建設が、開発業者によって計画されていることが明らかになりました。  
 住民の方からは、景観や町並み、日照、路上駐車（駐車スペースが9台分しかない）問題など「こんな街づくりでいいのか」という声が上がっています。  
 質問の中で中野議員は、「たしかに商業地域として容積率も高い地域だが、ほとんどの住民の方が低層住宅に住んでいて、心配、疑問は当然だ」「区画整理地域でもあり事業成否にも影響する」として、改めて住民との話し合いの重要性を強調しました。

**草の根から**  
 高幡地域の変電所計画、南部病院用地のマンション建設、突然浮上した豊田南地域の高さ53メートルの高層マンション問題に、いずれの地域からも「住環境を守れ」の声があがっています。こんなとき自治体は法的にはなすすべのない住民の立場でがんばるのが当然です。「法的にはクリアーしているから」といって、自治体の役割を放棄しているのでは、住民はたまりません。「まちづくり指導要綱」を住民の生活環境を守る砦として最大限努力すべきです。  
 「まちづくりの主役は『市民』です」「市民との協働によるまちづくりをすすめます」（日野市第四次基本構想）、この立場を貫くことを重ねて強く求めます。  
 中野あきと

**お詫び** 編集者病気のため、5月号を休刊としましたことを、お詫び致します。

緊急通報システムの充実と見守りネットワーク制度の確立を

独り暮らしの高齢者や高齢者夫婦の世帯にとって、体調が急変したり、突然の事故などが発生したときに緊急通報システムは、命綱として大切な役割を担っています。

日野市では現在、一〇一台設置されていますが、さらに多くの方が利用を希望されています。

ところが設置を希望しても、何かあったとき五分以内に駆けつけることができるという条件を満たす三名の地域協力を、申し込み者本人が確保しなければならぬという問題があり、制度普及のネックとなっています。

中野議員はケースワーカーや民生委員など、市としても協力員の確保に支援、手助けすべきだと提案しました。

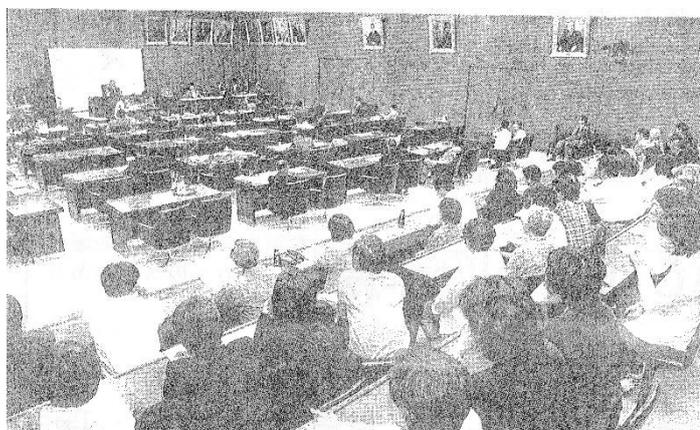
福祉部長より支援体制への努力と、柔軟な対応をするとの答弁がありました。

また中野議員は、こうした世帯に気軽に声をかけ見守るなど、日常生活を支えるネット

トワークを、在宅介護支援センターなどを活用し、制度として確立すべきだと要求しました。  
市長も、基本的には同感であり、趣旨にそいたいと回答しました。



# 医療改悪



傍聴席(手前は連日満員に。一方、自民党席左側)はガラガラ 5日、衆院厚生労働委員会

6月9日「しんぶん赤旗」日刊紙記事より

## 傍聴席満員 自民党席 ガラガラ



### これで強行するのか

傍聴席はいつも満員なのに、自民党の議員席はガラガラ。法案審議の委員会室で目にした、与党議員の不真面目な態度が傍聴者の怒りを買っています。  
定数四十五人の委員会なのに委員が十五、六人しかいないことも。定数の半分に満たず「傍聴者が見ている」と審議中断になったこともたびたびです。あわてて携帯電話で連絡を取り合い、同僚議員及び集める自民党議員。  
私語は当たり前。質問中にウロウロ立ち歩く議員までいます。  
七日、「政府が医療改悪法案成立を最優先課題に」のニュースに危機感を募らせ国会要請行動に上京した大阪市の藤坂利久さん(五)も議員席の様子にびっくり。「あんな重大法案の審議なのに。こんな状態で採決だけ急ごうとする与党の姿勢は許せない」と、語っていました。

医療費に占める負担割合

|      | 1979年 | (増減) | 1999年 |
|------|-------|------|-------|
| 国庫負担 | 30.1% | ↓    | 24.9% |
| 国民負担 |       |      |       |
| 保険料  | 28.9% | ↑    | 30.0% |
| 患者負担 | 11.4% | ↑    | 14.6% |

### 短信

「これ以上何かやれと言われても大変つらい……」議員さんはいいですよ。(議会で)お話をすればそれでいいでしょう。私は(それを)お伺いして後を受け止めなければならない。東京電力が高幡地域に建設を強行しようとしている屋外式変電所の問題で、市政が住民の立場に立つて解決するようせまる中野議員の追及に、ようやく腰を上げ思案しながらの馬場市長の弁。▽駅近くの住宅地の一面で、しかも住みよい街づくりを標榜している区画整理区域。換地設計にあたっては変電所などない土地評価で行なわれていたのに、ガスタンクや墓地と同様の「受損施設」とされる変電所の計画は土地評価を下げる大きな要素にも。さらに住民は変圧器による電磁界、騒音、放熱の不安にさらされることに。▽この計画を知らずに保留地を購入した住民のご家族からの手紙。心労のあまりやつれるご主人の様子を読み上げる中野議員の声に静まり返る議場。  
「市長!!もう一度住民の方とあつて話し合いを」とせまる中野議員に、「大変つらいが、もう一度何らかの努力をしたい」と市長も答弁。その結果を住民の方々は、かたずをのんで見守っている